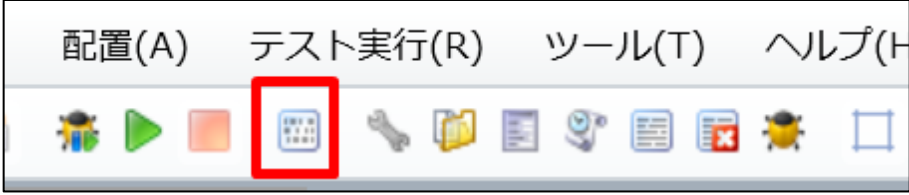


Fujitsu Workload Operations Integrator によるスクリプト起動用HULFT Squareアプリケーション
Overview

本アプリケーションについて

本アプリケーションは、Fujitsu Workload Operations IntegratorからHULFT Squareの処理を起動するためのスクリプトのサンプルをアプリケーション化したものとなります
機能についてはアプリケーション概要ページを参照ください
ご利用の際は、同梱スクリプトを任意のプロジェクトにコピー後、スクリプト設定に基づき指定箇所を設定いただきお客様の責任においてご利用ください
スクリプトを実行する場合は、実行前にスクリプトのビルド（デザイナー画面赤枠）を実施してください



INDEX

本アプリケーションについて

- ・アプリケーション概要

スクリプト設定

- ・設定フロー・スクリプト利用上注意
- ・スクリプト設定(Workload Operations Integrator_subScript)
- ・スクリプト設定(Workload Operations Integrator_mainScript)
- ・スクリプト設定(Workload Operations Integrator_pollingScript)

APIマネジメント設定

- ・APIプロジェクト
- ・APIクライアント
- ・REST APIジョブ

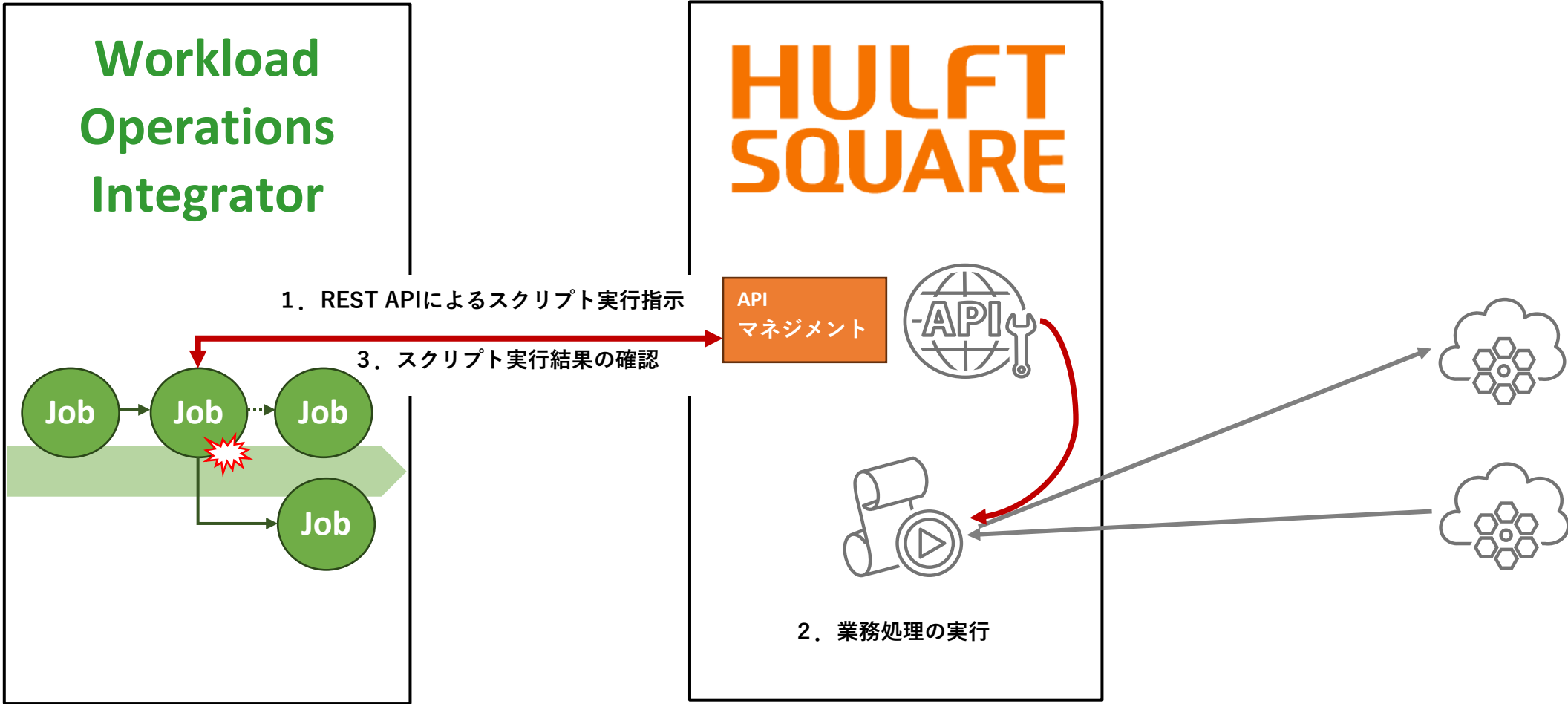
Fujitsu Workload Operations Integrator側設定

Fujitsu Workload Operations Integrator によるスクリプト起動用HULFT Squareアプリケーション
アプリケーション概要

1.動作イメージ

本アプリケーションは、下図のようにFujitsu Workload Operations Integratorと組み合わせて動作することを想定している
本アプリケーションをインストールし、APIマネジメントの設定を行うことで、下記機能を持ったスクリプトのサンプルを使用することができる

- ・ Fujitsu Workload Operations IntegratorからHULFT SquareのAPIマネジメントを利用した処理（スクリプト） の実行
- ・ 処理（スクリプト）を実行する際にFujitsu Workload Operations Integratorで指定した値を3つ引き渡すことが可能
- ・ Fujitsu Workload Operations Integratorから実行した処理（スクリプト） の実行状況/結果取得



Fujitsu Workload Operations Integrator によるスクリプト起動用HULFT Squareアプリケーション
設定フロー

本アプリケーションの設定フロー

1. AppSquareからアプリケーションをインストールし、3つの同梱スクリプトを任意のプロジェクトへコピー
2. [スクリプト設定(Workload Operations Integrator_subScript)]に沿って設定を行う
3. [スクリプト設定(Workload Operations Integrator_mainScript)]に沿って設定を行う
スクリプト呼び出しのコンポーネント（call_subScript）は、一度、プロパティを開き[完了]を押下（再読み込みが必要）
4. [スクリプト設定(Workload Operations Integrator_pollingScript)]に沿って設定を行う
5. [APIマネジメント設定(APIプロジェクト)]に沿って設定を行う
6. [APIマネジメント設定(APIクライアント)]に沿って設定を行う
7. [APIマネジメント設定(REST APIジョブ)]に沿って設定を行う
8. Fujitsu Workload Operations Integrator側の設定を行い、HULFT Square の処理（スクリプト）を呼び出す

Fujitsu Workload Operations Integrator によるスクリプト起動用HULFT Squareアプリケーション
スクリプト利用上注意

利用について

- ・本スクリプトはHULFT SquareのAPIマネジメントと組み合わせて使用することを前提といたします
本APIの実行は、HULFT SquareのAPIマネジメントのコール数の対象になります
- ・レート制限（リクエスト数制限）については、お客様が作成されるスクリプトの処理内容に応じて定めてください
- ・スクリプトの同時実行を制御する機能はございません。しかし、スクリプト内でフラグファイルを利用することで要件を満たすことが可能です
具体的な方法については、HULFT Square のテクニカルFAQ「スクリプト毎の同時実行数を設定することはできますか」をご参照ください
- ・Fujitsu Workload Operations Integratorから3つの値を子スクリプトに引き渡すことが可能です
4つ以上の値を引き渡したい場合、スクリプト変数をご準備いただき、リクエストボディからスクリプト変数へ格納、子スクリプトに値を引き渡す設定が必要です
- ・本スクリプトではFujitsu Workload Operations Integratorから実行するスクリプトを親スクリプトとした場合、子スクリプトの呼び出しは可能ですが、
孫スクリプトの呼び出しを行うことは出来かねます
孫スクリプトをご利用の際は、子スクリプトから孫スクリプトへ値を引き渡す設定や孫スクリプトのエラーメッセージを子スクリプトに引き渡す設定が必要です
- ・スクリプト実行中は「pollingScript」を繰り返し実行可能ですが、スクリプト実行結果を取得出来るのは1回です（スクリプト実行結果を取得後、実行結果ファイルを削除するため）
- ・該当の処理が終了しているにもかかわらず、pidファイルが残存している場合は、pidファイルを削除してください
- ・想定と異なる出力結果、もしくは異常終了した場合、HULFT Squareの実行ログを参照しエラーを確認する必要があります
（後述の「エラーログの収集について」を参照）

エラーのログ収集について

HULFT Squareの実行ログは以下から取得できます
[モニタリング]>[サービス]>[HULFT Integrate]より、該当ログのメニューから[エクスポート]

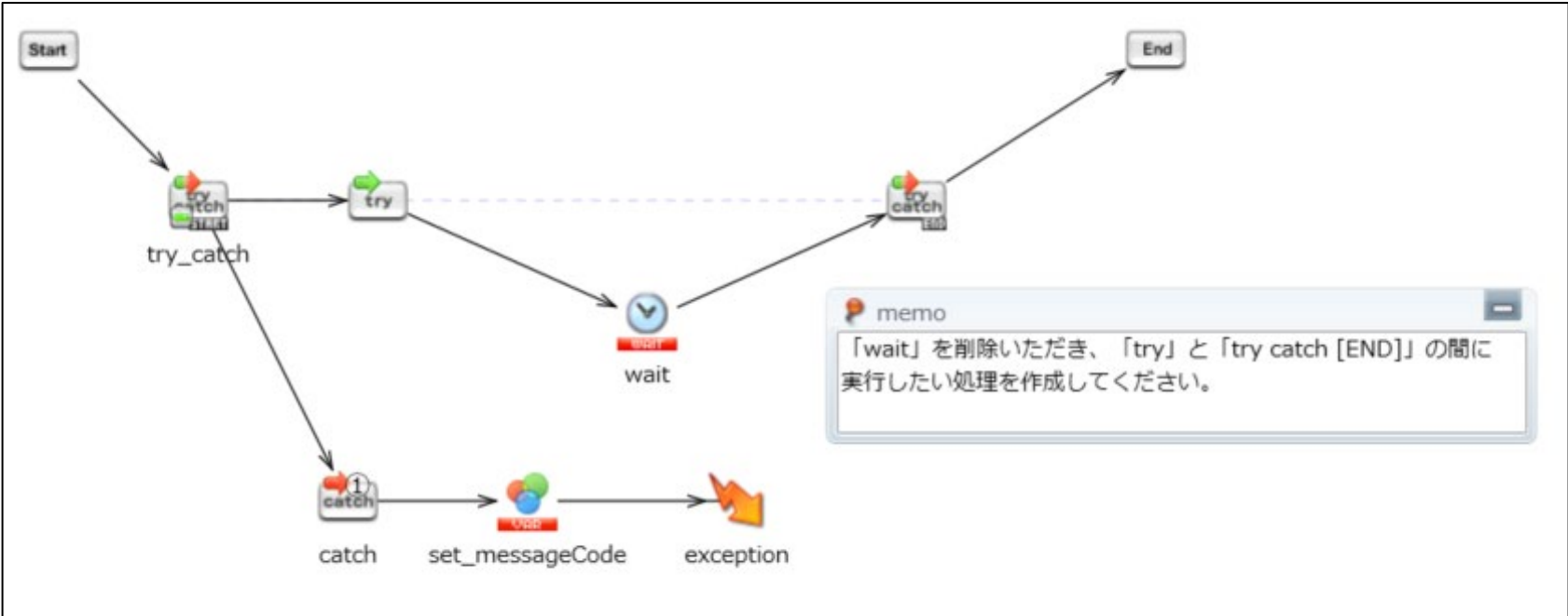


REST APIジョブアクセスログは以下から取得できます
[モニタリング]>[ログ]>[REST APIジョブアセスログ]より、[ログアーカイブをダウンロード]



Fujitsu Workload Operations Integrator によるスクリプト起動用HULFT Squareアプリケーション
スクリプト設定(Workload Operations Integrator_subScript)

スクリプト全体図



スクリプト概要説明

- 例外監視コンポーネントにより実行したい処理を監視します
- 処理にエラーがない場合、スクリプトは正常終了として戻り値「0」を返します
- 処理にエラーが発生した場合、メッセージコードを取得し、変数に格納し異常終了として戻り値「-1」を返します

スクリプト基本設定

ワークスペース	任意
格納プロジェクト名	Workload Operations Integrator
スクリプト名	Workload Operations Integrator_subScript

スクリプト変数

項目名	説明
O_messageCode	取得したメッセージコードの格納先
I_value1	Workload Operations Integratorから引き渡される値1
I_value2	Workload Operations Integratorから引き渡される値2
I_value3	Workload Operations Integratorから引き渡される値3

スクリプト詳細設定

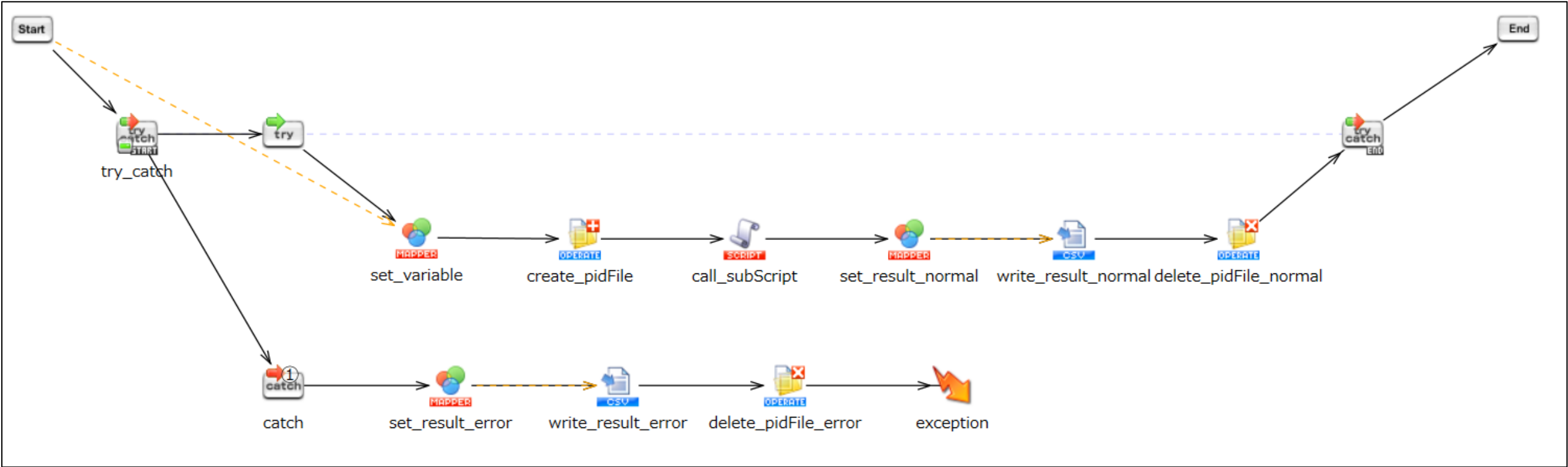
コンポーネント名	
try_catch	
コンポーネント概要	
エラー検知をした場合、catch以降の処理を実行	
必須設定	
チェック対象	すべてのコンポーネントにチェックなし

コンポーネント名		
set_messageCode		
		
コンポーネント概要		
メッセージコードを取得し、スクリプト変数に格納		
HULFT Square mapper エディタ		
入力元 （入力データ）	マッピングツール(値)	出力先 （出力データ）
コンポーネント変数/try_catch/message_category	連結ロジック	スクリプト変数/O_messageCode
コンポーネント変数/try_catch/message_code		
コンポーネント変数/try_catch/message_level		

コンポーネント名		
exception		
		
コンポーネント概要		
メッセージコードを出力し、異常終了として戻り値「-1」を返す		
必須設定		
メッセージ	\${O_messageCode}	

Fujitsu Workload Operations Integrator によるスクリプト起動用HULFT Squareアプリケーション
スクリプト設定(Workload Operations Integrator_mainScript)

スクリプト全体図



スクリプト概要説明

Fujitsu Workload Operations Integratorから実行されるスクリプトです
Fujitsu Workload Operations Integratorから3つの値をスクリプト変数へ格納することが可能です
Fujitsu Workload Operations Integratorへは、実行IDをレスポンスボディとして返します
スクリプトの実行IDを取得し、本スクリプトを実行している間は、実行IDを含むpidファイルを作成します
pidファイルを作成後、「Workload Operations Integrator_subScript」を呼び出し実行します
呼び出したスクリプトにエラーがない場合、実行結果をスクリプト実行結果ファイル（CSV）に出力後、作成したpidファイルを削除し、スクリプトは正常終了として戻り値「0」を返します
呼び出したスクリプトにエラーが発生した場合、メッセージコードを取得し、実行結果をスクリプト実行結果ファイル（CSV）に出力します
その後、作成したpidファイルを削除し、メッセージコードを変数に格納し異常終了として戻り値「-1」を返します

* 以下設定のオレンジ色の設定箇所は、スクリプトをインストールするだけでは設定されないため、
スクリプトをインストール後に手動で入力する必要があります

スクリプト基本設定

ワークスペース	任意
格納プロジェクト名	Workload Operations Integrator
スクリプト名	Workload Operations Integrator_mainScript

スクリプト変数

項目名	説明
L_messageCode	取得したメッセージコードの格納先
L_executionID	スクリプト実行IDの格納先
R_storagePass	スクリプト実行結果ファイルを格納するファイルパスを設定（入力イメージ：/＜お客様のHULFT Squareのワークスペース名＞/tmp）
l_value	APIのリクエストボディに指定しているHULFT Squareに引き渡される値の格納先
l_value1	Workload Operations Integratorから引き渡される値1
l_value2	Workload Operations Integratorから引き渡される値2
l_value3	Workload Operations Integratorから引き渡される値3

スクリプト詳細設定

コンポーネント名	
try_catch	
コンポーネント概要	
エラー検知をした場合、catch以降の処理を実行	
必須設定	
チェック対象	すべてのコンポーネントにチェックなし

コンポーネント名

set_variable



set_variable

コンポーネント概要

スクリプトの実行IDを取得し、スクリプト変数に格納
リクエストボディの値 (value1、value2、value3) をスクリプト変数に格納

HULFT Square mapper エディタ

入力元 (入力データ)	マッピングツール(値)	出力先 (出力データ)
なし	実行IDロジック	スクリプト変数/L_executionID
l_value/root/value1	単純移送	スクリプト変数/L_value1
l_value/root/value2	単純移送	スクリプト変数/L_value2
l_value/root/value3	単純移送	スクリプト変数/L_value3

コンポーネント名

Create_pidFile



Create_pidFile

コンポーネント概要

実行IDを含むpidファイルを作成

必須設定

ファイル名	\${L_executionID}.pid
作成先	\${R_storagePass}

コンポーネント名

call_subScript



call_subScript

コンポーネント概要

実行したい処理 (スクリプト) を呼び出す

必須設定

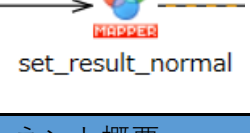
同じプロジェクトのスクリプト	Workload Operations Integrator_subScript ※別のプロジェクトにスクリプトを配置している場合を「別のプロジェクトのスクリプト」を利用
ジョブから呼び出す時に最新バージョンを利用する	有効

入出力

入力変数	変数名	型	値
	l_value1	文字列型	\${L_value1}
	l_value2	文字列型	\${L_value2}
	l_value3	文字列型	\${L_value3}

コンポーネント名

set_result_normal



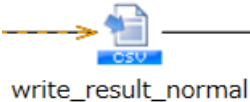
set_result_normal

コンポーネント概要

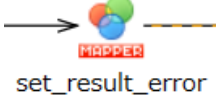
スクリプト実行結果ファイルに書き込むステータス、メッセージコード、スクリプト実行終了時刻を連携、メッセージコードはスクリプト変数に格納

HULFT Square mapper エディタ

入力元 (入力データ)	マッピングツール(値)	出力先 (出力データ)
なし	実行IDロジック	write_result_normal/table/row/executionID
コンポーネント変数/call_subScript/exitStatus	単純移送	write_result_normal/table/row/status
コンポーネント変数/call_subScript/O_messageCode	単純移送	write_result_normal/table/row/messageCode
なし	現在日時ロジック	write_result_normal/table/row/endTime
コンポーネント変数/call_subScript/O_messageCode	単純移送	スクリプト変数/L_messageCode

コンポーネント名	
write_result_normal	
	
コンポーネント概要	
スクリプト実行結果ファイルへ実行結果を出力	
必須設定	
ファイル名	\${R_storagePass}/\${L_executionID}.csv
デリミタ文字	半角カンマ
列一覧	executionID status messageCode endTime
書き込み設定	
エンコード	UTF-8
改行コード	CR+LF
上書き	無効
追加書き込み	無効
1行目に列名を挿入	有効
ファイルが存在する場合は列名を挿入しない	無効

コンポーネント名	
delete_pidFile_normal	
	
コンポーネント概要	
実行IDを含むpidファイルを削除	
必須設定	
対象パス	\${R_storagePass}/\${L_executionID}.pid

コンポーネント名		
set_result_error		
		
コンポーネント概要		
スクリプト実行結果ファイルに書き込むステータス、メッセージコード、スクリプト実行終了時刻を連携、メッセージコードをスクリプト変数に格納		
HULFT Square mapper エディタ		
入力元 （入力データ）	マッピングツール(値)	出力先 （出力データ）
なし	実行IDロジック	write_result_error/table/row/executionID
コンポーネント変数/call_subScript/exitStatus	単純移送	write_result_error/table/row/status
コンポーネント変数/call_subScript/O_messageCode	単純移送	write_result_error/table/row/messageCode
なし	現在日時ロジック	write_result_error/table/row/endTime
コンポーネント変数/call_subScript/O_messageCode	単純移送	スクリプト変数/L_messageCode

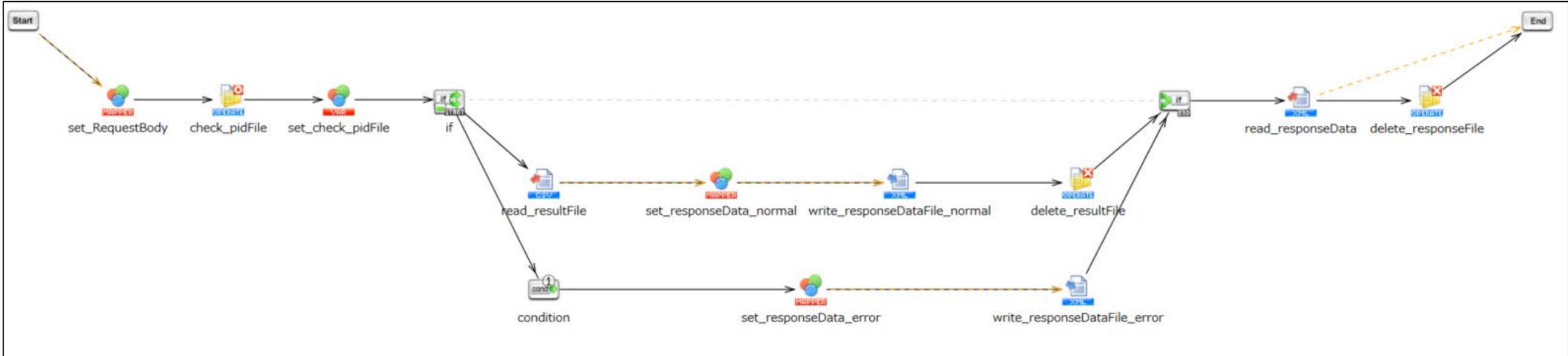
コンポーネント名	
write_result_error	
 write_result_error	
コンポーネント概要	
スクリプト実行結果ファイルへ実行結果を出力	
必須設定	
ファイル名	\${R_storagePass}/\${L_executionID}.csv
デリミタ文字	半角カンマ
列一覧	executionID status messageCode endTime
書き込み設定	
エンコード	UTF-8
改行コード	CR+LF
上書き	無効
追加書き込み	無効
1行目に列名を挿入	有効
ファイルが存在する場合は 列名を挿入しない	無効

コンポーネント名	
delete_pidFile_error	
 delete_pidFile_error	
コンポーネント概要	
実行IDを含むpidファイルを削除	
必須設定	
対象パス	\${R_storagePass}/\${L_executionID}.pid

コンポーネント名	
exception	
 exception	
コンポーネント概要	
メッセージコードを出力し、異常終了として戻り値「-1」を返す	
必須設定	
メッセージ	\${L_messageCode}

Fujitsu Workload Operations Integrator によるスクリプト監視用HULFT Squareアプリケーション
スクリプト設定(Workload Operations Integrator_pollingScript)

スクリプト全体図



スクリプト概要説明

実行中のスクリプトの実行結果を確認するスクリプトです
「Workload Operations Integrator_mainScript」を実行した際に取得した実行IDをFujitsu Workload Operations Integratorで実行するAPIのリクエストボディに指定します
指定のスクリプトの実行状況をpidファイルにて確認します
pidファイルがない場合、スクリプトが完了しているため、スクリプト実行結果ファイル（CSV）を読み取り、実行結果をxmlファイル（実行済み）へ出力、
スクリプト実行結果ファイル（CSV）を削除します
その後、xmlファイル（実行済み）を読み取り、xmlファイル（実行済み）を削除。読み取ったデータをレスポンスボディへ返却します
pidファイルがある場合、スクリプトは実行中のため、実行中であることをxmlファイル（実行中）へ出力します
その後、xmlファイル（実行中）を読み取り、xmlファイル（実行中）を削除。読み取ったデータをレスポンスボディへ返却します

*以下設定のオレンジ色の設定箇所は、スクリプトをインストールするだけでは設定されないため、
スクリプトをインストール後に手動で入力する必要があります

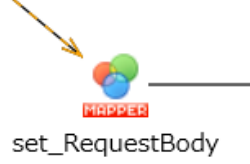
スクリプト基本設定

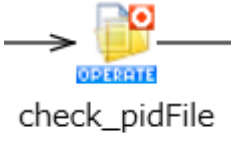
ワークスペース	任意
格納プロジェクト名	Workload Operations Integrator
スクリプト名	Workload Operations Integrator_pollingScript

スクリプト変数

項目名	説明
O_responseBody	実行結果をレスポンスボディに返却する際のデータ格納先
L_pidFileCheck	pidファイル有無結果の格納先
L_executionID	スクリプト実行IDの格納先
I_requestBody	APIのリクエストボディに指定している実行IDの格納先
R_storagePass	スクリプト実行結果ファイルを格納するファイルパスを設定（入力イメージ：/<お客様のHULFT Squareのワークスペース名>/tmp）

スクリプト詳細設定

コンポーネント名		
set_RequestBody 		
コンポーネント概要		
リクエストボディの実行IDをスクリプト変数に格納		
HULFT Square mapper エディタ		
入力元（入力データ）	マッピングツール(値)	出力先（出力データ）
I_requestBody/root/execution_id	単純移送	スクリプト変数/L_executionID

コンポーネント名		
check_pidFile 		
コンポーネント概要		
リクエストボディに指定されている実行IDのpidファイルの存在確認		
必須設定		
対象パス	\${R_storagePass}/\${L_executionID}.pid	

コンポーネント名		
set_check_pidFile		
 set_check_pidFile		
コンポーネント概要		
pidファイルの存在有無結果をスクリプト変数に格納		
HULFT Square mapper エディタ		
入力元（入力データ）	マッピングツール(値)	出力先（出力データ）
コンポーネント変数/check_pidFile/exist	単純移送	スクリプト変数/L_pidFileCheck

コンポーネント名

read_resultFile



read_resultFile

コンポーネント概要

スクリプト実行結果ファイルの読み取り

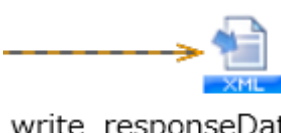
必須設定

ファイル名	\${R_storagePass}/\${L_executionID}.csv
デリミタ文字	半角カンマ
列一覧	executionID status messageCode endTime

読み取り設定

エンコード	UTF-8
読み取り開始行	1
最初の行は値として 取得しない	有効

コンポーネント名		
set_responseData_normal		
 set_responseData_normal		
コンポーネント概要		
リクエストボディに指定された実行IDのスクリプト実行結果を連携		
HULFT Square mapper エディタ		
入力元（入力データ）	マッピングツール(値)	出力先（出力データ）
read_resultFile/table/row	条件による抽出	write_resposnseDataFile_normal/root/element
read_resultFile/table/row/executionID	同じロジック	なし
スクリプト変数/L_executionID		
なし	単一行文字列定数 [object]	write_resposnseDataFile_normal/root/element/type
read_resultFile/table/row/executionID	単純移送	write_resposnseDataFile_normal/root/element/execution_ID
read_resultFile/table/row/status	単純移送	write_resposnseDataFile_normal/root/element/status
read_resultFile/table/row/messageCode	単純移送	write_resposnseDataFile_normal/root/element/messageCode
read_resultFile/table/row/endTime	単純移送	write_resposnseDataFile_normal/root/element/endTime

コンポーネント名		
write_responseDataFile_normal		
 write_responseDataFile_normal		
コンポーネント概要		
スクリプト実行結果をjson形式でファイルへ書き込み		
必須設定		
	ファイル名	\${R_storagePass}/\${L_executionID}.xml
書き込み設定		
	エンコード	UTF-8
	上書き	有効
	インデント	有効

コンポーネント名

delete_resultFile



delete_resultFile

コンポーネント概要

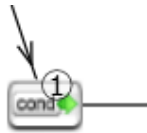
スクリプト実行結果ファイルを削除

必須設定

対象パス	\${R_storagePass}/\${L_executionID}.csv
------	---

コンポーネント名

condition



condition

コンポーネント概要

pidファイルが存在する場合の条件

条件式

変数 L_pidFileCheck が true と等しい

コンポーネント名

set_responseData_error



set_responseData_error

コンポーネント概要

スクリプトが実行中であることを連携

HULFT Square mapper エディタ

入力元（入力データ）	マッピングツール(値)	出力先（出力データ）
なし	単一行文字列定数 [object]	write_resposnseDataFile_error/root/element/type
スクリプト変数/L_executionID	単純移送	write_resposnseDataFile_error/root/element/executionID
なし	単一行文字列定数 [Processing]	write_resposnseDataFile_error/root/element/status

コンポーネント名

write_responseDataFile_error



write_responseDataFile_error

コンポーネント概要

スクリプトが実行中であることをjson形式でファイルへ書き込み

必須設定

ファイル名	\${R_storagePass}/\${L_executionID}.xml
-------	---

書き込み設定

エンコード	UTF-8
上書き	有効
インデント	有効

コンポーネント名

read_responseData



read_responseData

コンポーネント概要

格納されているスクリプト実行結果を読み取り

必須設定

ファイル名	\${R_storagePass}/\${L_executionID}.xml
-------	---

コンポーネント名

delete_responseFile



delete_responseFile

コンポーネント概要

スクリプト実行結果が格納されているファイルを削除

必須設定

対象パス	\${R_storagePass}/\${L_executionID}.xml
------	---

Fujitsu Workload Operations Integrator によるスクリプト起動用HULFT Squareアプリケーション
APIマネジメント設定(APIプロジェクト)

APIマネジメント

Fujitsu Workload Operations IntegratorからHULFT Squareの処理（スクリプト）を呼び出す場合、APIマネジメントの各種設定が必要となります
ここではAPIプロジェクトを設定例の含めて記載いたします

APIプロジェクト設定

項目名		設定値	設定例
名前		任意	Workload Operations Integrator
ワークスペース		任意	WorkloadOperationsIntegrator
説明		任意	なし
基本パス		任意	workloadoperationsintegrator
リソース			
リソースパス		任意	mainscript
メソッド：POST			
実行スクリプト			
プロジェクト		同梱スクリプトをコピーしたプロジェクト	Workload Operations Integrator
バージョン		任意（基本は最新バージョン）	最新バージョン
スクリプト		任意	Workload Operations Integrator_mainScript
リクエスト設定			
パス パラメータ		なし	なし
クエリー パラメータ		なし	なし
リクエスト ヘッダー		なし	なし
リクエスト 本文	コンテンツタイプ	JSON	JSON
	スクリプト変数	I_value	I_value
カスタム パラメータ		なし	なし
レスポンス設定			
レスポンス コード		200	200
レスポンス ヘッダー		なし	なし
レスポンス 本文	本文タイプ	テキスト	テキスト
	コンテンツタイプ	JSON	JSON
	本文	{ "execution_id": "\${execlId}", "result_status": "\${resultStatus}" }	{ "execution_id": "\${execlId}", "result_status": "\${resultStatus}" }
リソースパス		任意	pollingscript
メソッド：POST			
実行スクリプト			
プロジェクト		同梱スクリプトをコピーしたプロジェクト	Workload Operations Integrator
バージョン		任意（基本は最新バージョン）	最新バージョン
スクリプト		任意	Workload Operations Integrator_pollingScript
リクエスト設定			
パス パラメータ		なし	なし
クエリー パラメータ		なし	なし
リクエスト ヘッダー		なし	なし
リクエスト 本文	コンテンツタイプ	JSON	JSON
	スクリプト変数	I_requestBody	I_requestBody
カスタム パラメータ		なし	なし
レスポンス設定			
レスポンス コード		200	200
レスポンス ヘッダー		なし	なし
レスポンス 本文	本文タイプ	変数	変数
	コンテンツタイプ	JSON	JSON
	本文	O_responseBody	O_responseBody

Fujitsu Workload Operations Integrator によるスクリプト起動用HULFT Squareアプリケーション
APIマネジメント設定(APIクライアント)

APIマネジメント

Fujitsu Workload Operations IntegratorからHULFT Squareの処理（スクリプト）を呼び出す場合、APIマネジメントの各種設定が必要となります
ここではAPIクライアントの設定例を含めて記載します

事前準備

- HULFT Square のユーザーにAPIを利用するユーザーを登録します
- ※ポリシー（権限）の付与はなしにすることによりAPIの利用のみで、HULFT Square の操作が不可となるユーザーにすることが可能です

APIクライアント設定

項目名	設定値	設定例
名前	任意	WorkloadOperationsIntegrator
説明	任意	なし
メンバー	事前準備で用意したユーザー	user01
IP許可リスト	任意	x.x.x.x/x

Fujitsu Workload Operations Integrator によるスクリプト起動用HULFT Squareアプリケーション
APIマネジメント設定(REST APIジョブ)

APIマネジメント

Fujitsu Workload Operations IntegratorからHULFT Squareの処理（スクリプト）を呼び出す場合、APIマネジメントの各種設定が必要となります
ここではREST APIジョブの設定例を含めて記載します

REST APIジョブ設定

項目名	設定値	設定例
ワークスペース	APIプロジェクトと同じワークスペース	WorkloadOperationsIntegrator
APIプロジェクト	任意	Workload Operations Integrator
APIプロジェクトプロジェクトバージョン	任意（基本は最新バージョン）	最新バージョン
プロファイル	任意	default
説明	任意	なし
APIクライアント	任意	WorkloadOperationsIntegrator
スクリプト実行のためのサービス	任意	New_HULFT_Integrate

上記REST APIジョブを作成後、設定例の内容の場合、以下のようなAPIのエンドポイントが作成されます

リソース	HTTPメソッド	URL（https://<お客様のドメイン名>.square.hulft.com/<プロファイル名>/<基本パス>/<リソースパス>）
/mainscript	POST	https://<お客様のドメイン名>.square.hulft.com/default/WorkloadOperationsIntegrator/mainscript
/pollingscript	POST	https://<お客様のドメイン名>.square.hulft.com/default/WorkloadOperationsIntegrator/pollingscript

API仕様

前提条件

HULFT Square のAPIマネジメントは、お客様でカスタマイズが可能となります。

ここに記載している内容は、本仕様書に記載されているAPIマネジメント設定の "設定例" の内容をもとにしております。あらかじめご了承ください。

本アプリケーションに関連するHULFT Square API一覧

No.	API名	概要	メソッド	エンドポイント
1	LoginAPI	一時的なアクセストークンを取得	POST	https://app.square.hulft.com/v1/users/login
2	rest-api-tokenAPI	リフレッシュトークンによりアクセストークン取得	PUT	https://app.square.hulft.com/v1/rest-api-token
3	mainscriptAPI	スクリプト実行	POST	<a href="https://<お客様のドメイン名>.square.hulft.com/default/WorkloadOperationsIntegrator/mainscript">https://<お客様のドメイン名>.square.hulft.com/default/WorkloadOperationsIntegrator/mainscript
4	pollingAPI	スクリプト実行結果確認	POST	<a href="https://<お客様のドメイン名>.square.hulft.com/default/WorkloadOperationsIntegrator/pollingscript">https://<お客様のドメイン名>.square.hulft.com/default/WorkloadOperationsIntegrator/pollingscript

API詳細

1 LoginAPI			
リクエスト	エンドポイント		https://app.square.hulft.com/v1/users/login
	メソッド		POST
	クエリパラメータ		なし
	リクエストヘッダー		なし
	リクエストボディ (JSON)		{ "email": "abc@example.com", "password": "*****" }
レスポンス	正常時	レスポンスコード	200
		レスポンスヘッダー	なし
		レスポンスボディ (JSON)	{ "accessToken": "xxx", "expiresIn": 3600, "tokenType": "Bearer", "challenge": false, "email": "", "session": "" }
2 rest-api-tokenAPI			
リクエスト	エンドポイント		https://app.square.hulft.com/v1/rest-api-token
	メソッド		PUT
	認証		Authorization: Bearer <Login APIで取得したアクセストークン>
	クエリパラメータ		なし
	リクエストヘッダー		なし
	リクエストボディ (JSON)		{ "refreshToken": "yy" }
レスポンス	正常時	レスポンスコード	200
		レスポンスヘッダー	なし
		レスポンスボディ (JSON)	{ "expires": 1669798184, "accessToken": "ZZ", "refreshToken": "yy", expiresIn: 3600, tokenType: "Bearer", status: "Valid", updated: 1669794 }

3 mainscriptAPI				
リクエスト	エンドポイント		https://<お客様のドメイン名>.square.hulft.com/default/WorkloadOperationsIntegrator/mainscript	
	メソッド		POST	
	認証		Authorization: Bearer <rest-api-tokenAPIで取得したアクセストークン>	
	クエリパラメータ		なし	
	リクエストヘッダー		X-HSQ-Async = true	
	リクエストボディ（JSON）		{ "value1": "{スクリプトに引き渡す値1}", "value2": "{スクリプトに引き渡す値2}", "value3": "{スクリプトに引き渡す値3}" }	
レスポンス	正常時	レスポンスコード	200	
		レスポンスヘッダー	なし	
		レスポンスボディ（JSON）	{ "execId": "xxxxxxxxxxxxxx" }	
	異常時	レスポンスコード	400	リクエストデータがREST APIジョブ側で正常に受領出来なかった場合などに発生
			401	アクセストークンの指定に誤りがあった場合など、認証に失敗した場合に発生
			403	REST APIジョブのステータスが無効になっている Bearerトークンの発行ユーザーがAPIクライアントに含まれていない リクエストのエンドポイントが不正確
4 pollingAPI				
リクエスト	エンドポイント		https://<お客様のドメイン名>.square.hulft.com/default/WorkloadOperationsIntegrator/pollingscript	
	メソッド		POST	
	認証		Authorization: Bearer <rest-api-tokenAPIで取得したアクセストークン>	
	クエリパラメータ		なし	
	リクエストヘッダー		なし	
	リクエストボディ（JSON）		{ "execution_id": "{mainscriptAPI実行時にレスポンスボディで取得した実行ID}" }	
レスポンス	正常時 スクリプト完了	レスポンスコード	200	
		レスポンスヘッダー	なし	
		レスポンスボディ（JSON）	{ "element": { "execution_id": "xxxxxxxxxxxxxx", "Status": "0", "MessageCode": "xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx", "endtime": "YYYY-MM-DDTHH:MM:SS.SSS+xxxx" } }	
	正常時 スクリプト実行中	レスポンスコード	200	
		レスポンスヘッダー	なし	
		レスポンスボディ（JSON）	{ "element": { "execution_id": "xxxxxxxxxxxxxx", "Status": "Processing", "MessageCode": "", "endtime": "" } }	
	正常時 スクリプト実行失敗	レスポンスコード	200	
		レスポンスヘッダー	なし	
		レスポンスボディ（JSON）	{ "element": { "execution_id": "xxxxxxxxxxxxxx", "Status": "-1", "MessageCode": "{エラーメッセージコード}", "endtime": "YYYY-MM-DDTHH:MM:SS.SSS+xxxx" } }	
	異常時	レスポンスコード	400	リクエストデータがREST APIジョブ側で正常に受領出来なかった場合などに発生
			401	アクセストークンの指定に誤りがあった場合など、認証に失敗した場合に発生
			403	REST APIジョブのステータスが無効になっている Bearerトークンの発行ユーザーがAPIクライアントに含まれていない リクエストのエンドポイントが不正確
			500	同期実行時に、スクリプト実行の完了ステータスが「0」でない場合などに発生
			504	同期実行時に、レスポンス取得までに要するジョブの実行時間が29秒を超えた場合などに発生

Fujitsu Workload Operations Integrator側設定

Fujitsu Workload Operations Integratorの設定

Fujitsu Workload Operations Integratorは以下の手順で設定します。

詳細はFujitsu Workload Operations Integratorのマニュアル(Fujitsu Workload Operations Integratorユーザズガイド ジョブ管理サービス編)を参照してください。

- ① Fujitsu Workload Operations Integratorのセルフサービスポータルにログインします。
- ② セルフサービスポータルの連携アダプター認証情報の[作成]画面より、HULFT Square認証の認証情報を登録します。
登録するHULFT Square認証用のユーザー情報は、実行対象のHULFT SquareのREST APIジョブのAPIマネジメント設定(APIクライアント)に登録したユーザー情報を指定してください。
- ③ ジョブ管理サービスのクライアントにログインします。
- ④ HULFT Square連携ジョブを登録します。
HULFT Square連携ジョブの接続情報の接続URLに設定したHULFT SqaureのREST APIジョブのAPIのエンドポイントを指定してください。
- ⑤ HULFT Square連携ジョブを起動します。